観光関連の大学・専門学校

観光は明日の日本を支える重要な産業といわれ、今後さらなる成長が見込まれるが、その成長を確かなものにするには優秀な人材の確保が必要不可欠だ。ここでは観光に関わる充実した教育環境を誇る大学、専門学校10校を取り上げた。

観光関連の学校一覧（五十音順）

学校名	問い合わせ先
大学	
江戸川大学	0120－440－661
大阪観光大学	072－453－8222
國學院大學	03－5466－0141
淑徳大学	03－3966－7631
宝塚医療大学	06－6420－4477
文教大学	048－974－8330
専門学校	
ＪＴＢツーリズムビジネスカレッジ	03－5944－5255
専門学校日本ホテルスクール	03－3360－8231
東京ＹＭＣＡ国際ホテル専門学校	03－3202－7480
日本工学院専門学校	0120－123－351

明日の業界を担う人材を育成

國學院大學

地域を見つめ、地域を動かす

観光まちづくり演習Ⅲ

國學院大學観光まちづくり学部は同学の創立140周年を迎えた2022（令和4）年に開設。「地域を見つめ、地域を動かす」をモットーに、「日本各地の歴史・文化・自然を見つめ、観光を基軸に持続可能な『まちづくり』を考えて多様な側面から地域に貢献できる人材の育成を目指す」との教育方針を掲げている。

母体となる皇典講究所が明治15年に設立されて以来、地域社会のよりどころである神職たちを輩出してきた同学。卒業生が近年の少子高齢化により「氏子が減って祭りができない」「地域の伝統文化の継承が危ぶまれている」と危機感を持ち、「地域を元気にするような学びを大学に期待したい」と声を上げたのが学部創設の大きなきっかけとなった。

学びの柱は、文系と理系の垣根なく科目を柔軟に選択できるカリキュラムと、少人数で分野横断的な共同作業を行う「ゼミナール」「観光まちづくり演習」だ。

ゼミナールは都市計画、観光地経営、地方自治など、観光まちづくりに関わるさまざまな分野の教員が担当。1人の教員が約15人の学生を指導し、それをもとに学生が発表・討論を行うという対話的な学修となっている。

観光まちづくり演習は、Ⅰから Ⅲの3段階に及び、観光まちづくりに取り組む地域の現場に実際に足を運び、それぞれの課題解決につながる構想・企画を考え、提案するという内容。Ⅰで地域の見方や調査・分析方法の基本を学び、Ⅱで現地調査と、それを踏まえた地域課題の分析。Ⅲは総仕上げとして、課題解決の具体的な構想をまとめ、まちの関係者らにプレゼンテーションを行う。

フィールドワーク先は全国各地に及び、岐阜県高山市、千葉県香取市佐原地区のまちづくりNPOなどと観光まちづくりに関する連携協定を締結している。夏季休暇中に学部独自の「海外スタディツアー」を行うなど、学びのフィールドは世界にまで広がっている。

同学部の付置センターである地域マネジメントセンターでは、地域社会を学ぶための教科書を発行。「観光まちづくり演習Ⅰ～Ⅲ」で使用する『「観光まちづくり」のための地域の見方・調べ方・考え方』（朝倉書店）では、地域を見つめ、地域を動かすための、基礎的な視点や手法を学ぶ。

「観光まちづくり」のための地域の見方・調べ方・考え方

4年間を横浜市の横浜たまプラーザキャンパスで学ぶ。学部の創設を契機にキャンパスの1棟を同学部用に改装。教員の研究室のすぐ目の前に演習室を設け、学生が自由に使えるようにしている。「空き時間に仲間と勉強をしてもらい、行き詰まったら教員を呼んでアドバイスを受ける。教員と学生の距離が近くフレンドリーで、共に良い学びの環境をつくっていこうという意識があることが当学部の特徴だ」と同学。

卒業生の進路先は国家・地方公務員、観光協会・DMO職員、観光事業者などを想定。この春、同学部の第1期生が卒業した。

JATAが定時総会

「価値で選ばれる産業」へ

日本旅行業協会（JATA、正会員数1185社）は17日、第70回定時総会および理事会を東京都千代田区の経団連会館で開いた。2025年度事業・決算などが承認されたほか、すでに決定した26年度事業計画・収支予算を報告。今年度は「価値で選ばれる産業への変革」をテーマに、会員各社のコンプライアンス強化に向けた情報発信や経営者向けセミナー、DXや労働環境改善施策などを展開する。また訪日旅行分野では、オーバーツーリズム対策や地方分散を目指し複数年計画での戦略的訪日プロモーションを展開するほか、国内旅行では、ラーケーションと「ポジティブ・オフ」運動を相互連携させ、さらなる旅行需要の平準化に取り組む。

総会の様子

戦略的訪日プロモや需要平準化も

冒頭あいさつした高橋広行会長は、今年3月に閣議決定された「第5次観光立国推進基本計画」（第5次計画）について言及。策定に向けてJATAも積極的な提言を行い、その多くが施策に盛り込まれたことに謝辞を述べた。「インバウンド促進のみならず、アウトバウンド拡大にもつなげる方向性が明記されたことは大きな前進だ」とし、各国政府観光局との連携や2カ国・地域間における観光促進策の強化などを通じて、真に均衡の取れた国際交流を実現していくとした。

旅券（パスポート）の申請手数料が7月1日申請分から引き下げられることを機に、パスポートの保有率を高め、海外旅行のきっかけとなるよう業界として取り組みをいっそう強化していくことにも意欲を示した。

JATAの高橋氏

国内旅行に関しては、引き続き需要の平準化に取り組む考えを示した。ラーケーションの普及に加え、ユニバーサルツーリズムの推進にも注力し、高齢者が安心して旅行を楽しめる環境を整えていくと強調した。

観光庁の木村氏

続いて、観光庁次長の木村典央氏が来賓あいさつで登壇。好調なインバウンドに加え、「2030年までに海外旅行2千万人」の達成に向け、努力していく方針を示した。国内観光消費の7割は国内旅行だ。需要の平準化やユニバーサルツーリズムの推進にしっかりと取り組んでいきたい」と述べ、第5次計画の遂行に引き続きの協力を求めた。

議事では、2025年度事業・決算に加え、常勤役員の報酬総額の引き上げについていずれも承認。26年度事業計画・収支予算も報告された。

26年度は、引き続き①会員会社の経営強化②適正な経営③協会の安定運営④人材戦略と労働環境改善⑤商環境の変化への対応⑥DX化と協調共創による生産性向上⑦情報発信・渉外機能強化⑧持続可能な観光の実現⑨高付加価値化・旅行の質の向上―の9施策を展開。

このうち①の会員会社の経営強化については、コンプライアンス推進として今年1月1日に改正された中小受託取引適正化法（取適法）や今年12月1日に改正法が施行される公益通報者保護法など、関係法令などの情報発信や経営課題に関するセミナーを開催する。

⑤の商環境の変化への対応では、インバウンドの地方分散に向け、広域DMOや日本政府観光局（JNTO）と連携。複数年計画での戦略的訪日プロモーションとして、まずは東北地方を皮切りに展開する。

⑧の持続可能な観光の実現では、ラーケーションと企業の休暇促進策「ポジティブ・オフ」運動を相互連携させた需要平準化施策を推進。国や先行自治体と連携し、全国への波及を目指す。

役員改選

原会長体制が発足
副会長は2氏が新任に

総会の後半には役員改選も行われた。理事、監事、運営役員含め41人を一括して選出。会長には一風の旅行社会長の原優二副会長が選出されたほか、副会長には、JTB社長の山北栄二郎氏、日本旅行社長の吉田圭吾氏が新たに就任。阪急交通社会長の酒井淳氏は副会長続投となった。また理事長（代表理事）には蝦名邦晴氏が続投となったほか、業務執行理事・事務局長には徳野浩司氏が新たに就任した。（関連1面）

（左から）山北氏、原氏、酒井氏、吉田氏

総会では、原新会長があいさつで登壇。「私たちは2023年以降、コロナ禍で失った多くの人材を取り戻し、将来を担う若い人材を迎えようと努めてきた。『旅行産業は生産性が低い、低賃金だ、長時間労働だ』と批判を受けてきたが、いつまでもこうした批判に甘んじているわけにはいかない。何としても、旅行商品の高付加価値化を図り、生産性を向上させ、働き方改革をさらに進め、やりがいと働きがいのある産業へと（変革を）進めていく」と強調した。

懇親会には、金子恭之・国土交通相をはじめ、木原稔・内閣官房長官、城内実・日本成長戦略担当相など政界から多くの来賓が駆け付けた。

今回の役員改選で選出された役員のうち、新任および役職変更の役員は次の通り（敬称略）。

【副会長】
新任＝山北栄二郎（JTB）▽吉田圭吾（日本旅行）

【理事】
新任＝小山佳延（KNT－CTホールディングス）▽徳野浩司（JATA）
役職変更＝橋本肇（エヌオーイー）▽神田真也（ANA X）

【運営役員】
新任＝石川操（日新航空サービス）▽大村剛也（ジャルパック）▽北島謙治（郵船トラベル）▽田中國智（ATI）

【監事】
新任＝西山郁也（TOPPANトラベルサービス）

【水田寛人】

本社を「管理本部」に改称

総務・経理など業務基盤を統括

クラツーマーケティング本部を担当するほか、管理本部と統合プロジェクトの総括も担当する。

KNT－CTHD グループ4社 6月役員人事

◎近畿日本ツーリスト ブループラネット（6月9日付）
退任＝四方田秀明（取締役）▽浅川義直（同）
◎近畿日本ツーリスト
締役〈非常勤〉）▽松本佳澄（執行役員）
◎三喜トラベルサービス（6月11日付）
就任＝代表取締役社長（ユナイテッドツアーズ）
代表取締役社長と兼務）
大原浩
◎クラブツーリズム（6月16日付）
新任＝取締役〈非常勤〉
ィングス専務取締役）上田尚義▽監査役〈非常勤〉（KNT－CTホールディングス監査役）加藤真人▽執行役員（近畿日本ツーリストブループラネット取締役）四方田秀明
退任＝平野恭一（専務取締役）▽伊藤浩一（取締役）▽中之坊健介（同）▽長岡徹（同）▽米田宗弘（監査役）
締役（非常勤）
佳澄（執行役員）
◎三喜トラベルサービス（6月11日付）
就任＝代表取締役社長（KNT－CTホールディングス専務取締役）上田尚義
退任＝中之坊健介（取（ユナイテッドツアーズ）

旅行業・運輸

鳥海高太朗の交通トレンド分析 ―339―

東海道新幹線運転見合わせで「カーシェア」を活用してみた

6月19日金曜日の夕方、東海道新幹線は浜松駅で発生した、線路内に人が立ち入り接触した事故の影響で、3時間以上にわたり運転を見合わせた。私自身もその影響を受けた1人であった。

この日はレギュラー出演している静岡第一テレビの番組を終え、静岡駅18時41分発のひかり号で東京へ戻る予定だった。しかし駅へ向かう途中（18時ごろ）に運転見合わせの情報が入り、当初は短時間で再開すると思っていたものの、その後、線路内立ち入りだけでなく、人との接触事故であることが判明し、警察による現場検証が必要となることから、再開まで2～3時間以上かかる見込みとなった。

運転見合せ区間は東京―新大阪間へ拡大。私は20時から都内でお世話になっている方との食事会の予定が入っていたため、途中からでも参加する方法を検討した結果、18時半ごろにカーシェアを利用して東京へ向かうことを決断した。

レンタカーを借りて、都内で乗り捨てする方法も考えたが、最も早く出発できるのは会員登録済みのカーシェアだった。スマートフォンで予約し、そのまま乗車できる手軽さは大きなメリットである。一方でカーシェアは乗り捨てができず、翌日に静岡へ返却しなければならないという欠点もあったが、時間を優先した。

結果的に静岡から東京都内までは約2時間半。渋滞もなく21時15分ごろには会場へ到着し、食事会に途中参加することができた。車で来たためお酒は飲めなかったが、食事会後にそのままカーシェアで帰宅し、翌朝改めて静岡へ返却に向かった。結果的にカーシェア料金は約1万3千円、高速料金を含めると総額は2万円を超えた。それでも予定に参加できたことを考えれば、この方法で良かったと思っている。

今回学んだのは、交通トラブル時に複数の選択肢を持っておくことの重要性だ。在来線（東海道線）や高速バス、ホテル宿泊という方法もあったが、後ろの予定に応じて最適な判断は変わる。都内に戻れれば良いのであれば、在来線利用や運転再開まで食事をしながら待つという判断もできた。幸いにも新幹線乗車前だったことも大きかった。

こうした事態に備えて、レンタカーやカーシェアを利用する可能性がある場合はETCカードを常に携帯しておくことも大切だと思った。私自身、今回ETCカードがあったことで高速道路をスムーズに利用できた。

新幹線に限らず、突然の運休や遅延は起こり得る。だからこそ、日頃から代替手段を考えておくことが、いざという時の安心につながることを今回身をもって感じた。

（航空・旅行アナリスト、帝京大学非常勤講師）

地域を見つめ、
地域を動かす

文系・理系の垣根を越えた
新しい学びがここにある

もっと日本を。もっと世界へ。

國學院大學　観光まちづくり学部

國學院大學 入学課（若木タワー1F） 〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28
TEL.03-5466-0141（直通） https://www.kokugakuin.ac.jp

特集
6～9面

東京YMCA国際ホテル専門学校
日本初のホテル専門学校

東京YMCA国際ホテル専門学校（東京都新宿区）は、「日本初のホテルに特化した専門学校」として1935年に創立。

以来、1万2千人を超える卒業生を輩出し、総支配人からサービススタッフといったあらゆるステージで活躍している。

1972年に開設した1年制の「ホテル専攻科」を2017年度に「ホテル旅館経営学科」としてリニューアルを図り、旅館の後継者および、経営者を養成するなど観光立国の実現に貢献する点もポイント。「この学科は、宿泊施設の後継者が集まる国内唯一の学科に位置づけられ、旅館・ホテルの後継者・経営者育成の環境強化が主な目的」と校長の小畑貴裕氏。

経営者に最も必要なこととは「旗振り」で、自身が正しいと思う決断を支配人からサービススタッフに方向性を示すことが求められる。「そのため、カリキュラムには、マネジメントを皮切りに、マーケティングやアカウンティングを基盤とし、管理理論と実践的なものに特化した講義をラインアップした」と小畑氏。

特別授業として、宿泊業界に特化したビジネススクール「宿屋大学」が主催する講座に通年、社会人に混ざり参加。日本の宿泊業界をけん引する著名なキーパーソンの講師や受講者同士のつながりも生まれ、「YMCAネットワークが最大の財産で、経営者に必要な人脈づくりにも貢献していく」と力説する。

また、2年制の「ホテル科」はおもてなしのプロを追求し、実際のホテルでのOJTで実践スキルを磨くべく、〝6カ月間のホテル実習〟で自身の可能性と選択肢を広げる。

さらに、1年次の夏期休暇にリゾートホテル実習の参加も可能で、これらの企業での実習が、即戦力となる人材の輩出につながっているという。

今年度からは従来のオープンキャンパスや体験入学に加えて、学校帰りに気軽に参加できる夕方や土曜午前中の学校説明会の新設など、学生確保にも注力し、業界が抱える慢性的な働き手不足の解消にも一役買っている。

先人たちが守ってきた歴史と伝統を引き継ぎ、次世代のリーダーとしての自信を深める場として、この学校は存在し、「次代を担う人材を輩出することがYMCAの大きな使命」と語る。

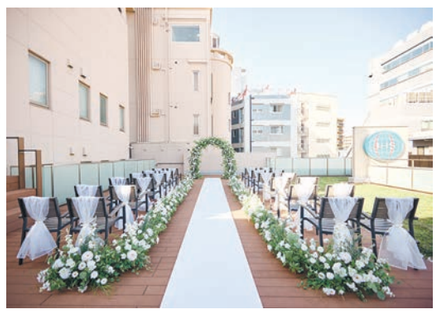
小畑校長自らが講師を務めるワーク形式授業の「SDGs理解講座」

専門学校日本ホテルスクール
礼節重んずる人間育成

今年学校設立55周年を迎える学校法人日本ホテル学院が運営する専門学校日本ホテルスクール（東京都中野区）は、日本で唯一無二のホテルが作った学校として真のホテリエを輩出している。

「礼と節を重んずる人間の育成」―理論と実技の一体化によるサービスの創造」―などが教育理念として挙げられ、約1万5千人の卒業生を輩出。今日までホテル・ブライダル・レストラン業界で幅広く活躍し、日本のサービス業の一翼を担い続けている。

今年3月の卒業生の就職状況は、日本全国のホテル・旅館などに採用され、安定の希望者就職率100%を達成。「当校のカリキュラムは、将来、ホテル・ブライダル関連業界における中堅幹部以上の人材育成を目標に、2年間を通じて授業と実技・実践の両輪で教育課程の一体化を図っている点が特徴。専門知識と技術・技能の習得を目指し、98%がホスピタリティ業界に進んだ」と同校。


新設した「風のチャペル」

開校以降、「産学連携」を軸として教育カリキュラムを組み立て、ホテル・ブライダルを中心に、企業と連携した実践教育に竣工され、ホテルフロントシステムの新規導入や拡張された演習会場で模擬披露宴を実施し、教育の充実化を実現した。

さらに、一昨年4月からは、宿泊施設におけるSNSを駆使したプロモーションが重要視されていることを背景に、「表現して伝える力」を持った次世代のホテリエの育成を目指す「ホテルSNSコミュニケーション科（昼間部）」を新設。ホテルのサービス全般に加えて、独自のカリキュラムとしてSNSのオペレーションやマーケティングを設けて、「コミュニケーションツールをホテルのマーケティングや広報に生かす力を養うことが目標」と話す。

江戸川大学
教育理念は「人間陶冶」

江戸川大学は千葉県流山市の駒木キャンパスで観光教育を行っている。流山おおたかの森駅（つくばエクスプレス・東武アーバンパークライン）から無料スクールバスで6分、徒歩だと18分の便利な場所に立地している。

同大のルーツは1931年設立の城東高等家政女学校。「教養ある堅実な女性の育成」を教育理念とし、その指針として「誠実」「明朗」「喜働（きどう）」の三つを掲げた。現在、学校法人江戸川学園は、1990年に開学した江戸川大学を母体とし、社会学部（現代社会学科、人間心理学科、経営社会学科）とメディアコミュニケーション学部（マス・コミュニケーション学科、情報文化学科、こどもコミュニケーション学科）の2学部6学科制。観光教育は社会学部現代社会学科（定員80人）が担っている。

江戸川大学外観

同学科は「観光学・地域創生ゼミナール」「テーマパーク・観光まちづくり学ゼミナール」「文化人類学ゼミナール」「民俗学ゼミナール」「環境学ゼミナール（くらしと地球環境）」「環境学ゼミナール（自然共生社会）」「スポーツ社会学ゼミナール（競技）」「スポーツ社会学ゼミナール（公共）」の10ゼミナールを10人の教員が担当している。

今年度から、「テーマパーク・観光まちづくりゼミナール」担当の大塚良治教授が学科長に就任。「ハートフル現社」を合言葉に、新体制がスタートした。

「現代社会学科はあらゆる学問分野の科目が多角的に用意され、楽しみながら学ぶことができるのが特色です。これを『講義ビュッフェ』と命名しています」

大塚学科長は「テーマパーク・観光まちづくりゼミナール」というユニークなゼミナールを担当する。「まちでのフィールドワークを通して、地域活性化に対する理解を深めています。受講生には地域活性化策を作成してもらい、行政などへの提案につなげています。ゼミナールでの学びが地域課題の解決に結びつくよう努めています」（大塚教授）。

崎本教授

観光学・地域創生ゼミナールを担当する崎本武志教授は「現代社会学科の10ゼミナールは全て『観光』というキーワードでつながっています」と話す。同教授はJTBの出身。日本国際観光学会および日本ホスピタリティ・マネジメント学会の会長、鉄旅オブザイヤーの審査委員も務めている。

「社会学部現代社会学科では、社会学を基盤にした基礎的な知識とフィールドワークの調査手法を身につけ、多様な研究領域から社会の課題解決にアプローチ。『現場で学び、問題に切り込んで常識を疑い、解決策を提示する』という一連の流れを重視しています。『文化』『観光』『環境』『スポーツ』の四つのフィールドから現代社会を捉える力を養うとともに、実際に現地を訪れて調査研究を行う『フィールドワーク』で、調査力、発見力、考察力、マネジメント力、解決力を身に付けます。3年次からは10の研究領域から興味関心にあったゼミナールを選択し、自身の研究テーマを探求していただきます」（崎本教授）。

昨年4月には新施設「フィールドワークラボ」を開設。フィールドワーク専門の常設教室として、フィールドワークの準備、研究、発表と展示を行っている。フィールドワークの成果を学生たちが相互に確認しあえる施設となっている。

各ゼミナールでの取り組みはユニークだ。

観光学ゼミナールのフィールドワークでは、JR東日本の柏駅と連携して、JRの駅を基点に周辺地域の魅力を楽しむイベント「駅からハイキング」に参画。スタッフとして参加し、当日の受付、スマホアプリの利用方法の案内なども行い、ホスピタリティを実践で学ぶ場ともなっている。

土屋薫教授は「食文化・レジャー学ゼミナール」を担当。「グローバルセルなど。観光・観光関連業界へ確実に人材を輩出している。

野上玲子准教授担当の「スポーツ社会学ゼミナール（公共）」では、サッカーやラグビーなどのプロスポーツの現場へ行き、ボランティア活動を通じてスポーツと社会とのつながりをテーマとしたフィールドワークを行っている。

文化人類学ゼミナール（川瀬由高准教授）と民俗学ゼミナール（林承緯教授）では合同で台湾に、環境学ゼミナール（奥山正樹教授）では上高地にそれぞれフィールドワークに行き、学生からも好評を博している。

同学科の2020年度から25年度の卒業生の就職先は、阪急交通社、クラブツーリズム、イオンコンパス、農協観光、オリエンタルランド、リゾートトラスト、東横イン、一般財団法人休暇村協会、グリーンホスピタリティマネジメント、東京ベイ舞浜ホテル、ケン・ホテルマネジメント日光鬼怒川、ホテル三日月、伊東園ホテルズ、秩父鉄道、東急バス、アニヴェ

観光学・地域創生ゼミでは、インバウンド観光を支える成田国際空港へ。同空港の施設や歴史を学び、国際観光・国際空港のあり方を考える機会に。
撮影協力：Narita Airport

環境学ゼミでは、国立公園研究所と連携した独自の現地実習を実施。パークレンジャーやプロガイドから直接学べる機会も。

フィールドワークで世界を知る
現代社会学科ではフィールド先からの実況中継を行います

来場型とオンライン型のハイブリッド開催
入試相談会
※高校3年生・既卒生対象
※予約が取れた時間にご参加ください
9/5（土）　9/19（土）
各日 9:00～17:00
●個別相談　●キャンパス案内
事前申込制 先着45名

学部・学科の学びやキャンパスライフの魅力がわかる多彩なメニューを体験
オープンキャンパス
※事前申込制
7/11（土）　8/1（土）　8/2（日）
8/22（土）　8/23（日）　2027年 3/20（土）
各日 午前の部 9:30～/ 午後の部 13:00～
● 大学概要説明　● 学部学科の展示コーナー　● キャンパスツアー　● 学食体験
● 個別相談コーナー（入試・就職・奨学金など）　● フィールド先からの実況中継

遠方にお住まいの方や、来場型のオープンキャンパスにご都合の合わない方は、オープンキャンパスなどで行っているプログラムを動画でご紹介する「Web オープンキャンパス」をご覧ください。
Web オープンキャンパス
オンラインでの個別相談
1分で分かる！江戸川大学の学びの魅力を先生が解説！
LINE公式アカウント友だち登録！

江戸川大学 EDOGAWA UNIVERSITY
〒270-0198 千葉県流山市駒木474
お問い合わせ先：入学課
0120-440-661　nyushi@edogawa-u.ac.jp
URL edodai.jp

観光を通じて未来を創る学び舎
未来観光塾
for Working People

『今』と『未来』の
ツーリズム業界で活躍し、
明るい未来を拓き、
導くチカラを手に入れる。

未来観光塾は、
JTBグループの知見と
JTBツーリズムビジネスカレッジが
長年培ってきた教育ノウハウを通じて、

1 自社で社員教育や研修を行うことが難しい
2 実務や現場対応、危機管理など実践で活用できる内容を学ばせたい
3 外国人スタッフに日本流ビジネス・コミュニケーションを身につけてほしい
4 リスキリングやスキルアップを通じて、社員の成長と生産性の向上を実現したい

といったニーズにお応えします!!

各地域や企業のオーダーメイド研修のご相談も承ります！

お気軽にお問い合わせください　WEBからのお問い合わせ

学校法人 国際文化アカデミー
JTBツーリズムビジネスカレッジNEXT
次のステージに踏み出す社会人・大学生のための自己成長支援プラットフォーム

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨 3-2-12
03-5944-5255
jtc-next@jtb-college.ac.jp

淑徳大学
SHUKUTOKU　共に歩む　これまでも　これからも

経営学部
観光経営学科
体験型学習を通して観光経営の実践を学ぶ
観光産業で活躍するマネジメント人材をめざします

淑徳大学　〒174-8631　東京都板橋区前野町 6-36-4
TEL：03-3966-7631（代表）
大学ホームページはこちらから

進化する観光経営人材育成　淑徳大学

開学から60年の節目を迎えた淑徳大学では、さらなる高みをめざして近年、観光経営人材育成を多角的に推進する。

その一つが、令和6年度からスタートした「東京都観光経営人材育成講座」である。〝地域が誇る自然資源を活かした観光〟をテーマに、座学やフィールドワークを通じて学ぶ全12回の講座で、観光事業者らを対象に、一流の講師陣によって構成される。

サステナブルツーリズムにおける新たな担い手づくりは、大乗仏教の教え「利他共生」を建学の精神とする淑徳大学ならではの取り組みで、社会貢献活動の一環でもある。喫緊の課題である地域経営やホスピタリティスキルアップを多彩に展開する。

近ごろは、東武タワースカイツリー株式会社の協力のもと、新入生約120人が東京スカイツリーを視察・見学したばかり。「実学の淑徳」を旗印に、関連企業や業界団体、自治体などと連携した特色ある学びを推進している。

なかでも、キャリア教育の根幹となる独自のインターンシップ・プログラムや、グローバル意識の醸成に寄与する短期海外研修（シンガポール・ハワイ）には定評があり、例年、多くの学生が参加する。

観光分野のみならず、簿記・会計やマーケティング、データサイエンスなど経営学の基礎を修得して、「観光経営学士」の称号をもって卒業したリズム、HIS等。宿泊業は相当数を輩出しており、東急・東武系ホテルやプリンスホテル、星野リゾートなど。また、地方公務員や不動産、金融機関などへも就職をしており、観光をさまざまな視座から支えている。

主な就職先は、運輸ではJR東日本やJAL・ANAグループ、ソラシドエア総合職に、旅行業では日本旅行や東武トップツアーズ、クラブツーリズム、HIS等。宿泊業は相当数を輩出しており、東急・東武系ホテルやプリンスホテル、星野リゾートなど。また、地方公務員や不動産、金融機関などへも就職をしており、観光をさまざまな視座から支えている。

これら活動の成果は、淑徳大学・東京キャンパスを会場に、今冬、開催される「日本観光研究学会」第41回大会（26年12月5・6日）シンポジウム、ならびに観光経済新聞特集記事で発表の予定だ。

千葉・千葉第二・埼玉・東京の4キャンパス、7学部13学科で展開する淑徳大学は、なかでも観光経営学科が東京キャンパス（東京・板橋）という地の利を生かして、学部生のフィールドワークを多彩に展開する。

JTBツーリズムビジネスカレッジ　「学び直し」へ新たな教育

JTBツーリズムビジネスカレッジ（学校法人国際文化アカデミー）は、1982年にJTBグループが設立した専門学校。開校以来の希望者就職率は99・8%。ツーリズム業界就職率95・3%、JTBグループ就職率45・0%を誇っている。特筆すべきはJTBグループへの就職者数で、累計で3111人に上る。

同校は今年4月、社会人のリスキリング（学び直し）から大学生の就業体験まで、観光を学びたいすべての人に門戸を開く新しい教育プラットフォーム「JTBツーリズムビジネスカレッジNEXT」を本格始動した。

その背景と狙いについて、同校の常務理事法人統括本部長の鈴木良照氏は次のように説明する。

「特に社会人の中で、新しい業務に必要なスキルを習得する学び直し『リスキリング』のニーズが高まっています。また、コロナ禍を経て、観光業界のビジネスモデルは大きく変わり、各所で深刻な人手不足も起きています。日本全体で労働人口が減る中、一人一人の生産性を上げることで、企業としての収益の確保や改善が不可欠になっています。加えて、個人が『自分には何ができるのか。どんな能力を持っているのか』を明確に問われる時代にもなっています。だからこそリスキリングが重要で、そこを私たちがサポートしようと『NEXT』を立ち上げました」。

NEXTが手掛けるのは「観光を通じて未来をつくる人を育てる」。「観光を通じて未来を創る学び舎『未来観光塾』」。大学生向けのプログラムでは、就職活動でライバルと差をつけるための実践的なインターンシップや課題解決型プログラムを提供し、「好き」や「憧れ」を本物のキャリアに変えるための第一歩を後押しする。また、社会人向けプログラムでは、新しい顧客ニーズや多様化するサービスを身に付け、それらを常に形態に対応するためのリスキリング、若手育成、実務研修など、JTBのノウハウをベースに、お客さまとの円滑なコミュニケーションに必要な知識やスキルを幅広く学ぶ。

学生の学びは、毎年入学直後に「リゾナーレ八ヶ岳」で行われるフレッシャーズキャンプからスタート。新しい仲間や教員との交流を深めるほか、本物のサービスを体験し、業界への理解や学ぶ意欲を育むのが目的だ。その後、1年次前期は共通した学びや長期インターンシップを経験。後期には学びたい内容に合わせてコースを選択する。ホテル・観光科は、企業と連携した課題から取り組みたいものを学生が選択。「魅力的な旅をつくる」ことを念頭に、学んできたマーケティングを実践し、企画・制作力を磨きながら研究を進めていく。主な課題は、①新ホテルの企画②ホテルの課題解決（SDGs、食品ロス削減など）③観光客向けイベントの企画実施④カマレンジャーとして蒲田の魅力を発信⑤ツアーの企画実施―の五つ。これらを学生に経験させることで、「自ら考え行動し、新しい旅のスタイルと滞在の演出ができる観光人材の育成」につなげていく。

遠藤麻由教師は星野リゾートの出身。2020年のホテル・観光コース発足時から学生の指導にあたっている。遠藤教師は教育にマーケティングを取り入れる狙いについて「観光マーケティングコースでは、新しい旅の魅力や旅のスタイルを提案できる人材教育を行います。観光デザインという新科目も導入し、ホテル、旅行会社だけでなく、OTA、DMO、観光行政などでも活躍できる人材を育成していきます」と話す。

25年度の就職率は100%。卒業生の主な就職先は、星野リゾートを筆頭に、ホテルニューオータニ、ザ・リッツ・カールトン東京、マリオット・インターナショナルジャパン、三菱地所ホテルズ&リゾーツ、京急電鉄などとなっている。

JTBカレッジ外観

JTBカレッジの図書室

日本工学院専門学校　星野リゾートと教育連携

日本工学院専門学校は26年4月、「ホテル・観光科」を新設。ビジネス系の学科で「ホテル・観光コース」として行ってきた教育をさらに発展させ、星野リゾートプロデュースによる教育で、次世代のホスピタリティ産業を担う観光人材を育成している。

「サービスは覚えるものではなく、自分で発想し生み出すもの」という星野リゾートの理念を共有。「観光マーケティングコース」「ホテルスタッフコース」の2コース制で、スマートフォンの普及やライフスタイルの変化、インバウンドの拡大などにより、旅行のあり方が大きく変わりつつあるホテル・観光業界の未来を見すえた教育を展開する。

同校では、専門学校で唯一、日本を代表するリゾート運営会社である星野リゾートと教育連携。ホテル・リゾートの実践的業務を学べる教育を実施している。星野リゾートスタッフの講師派遣や教育カリキュラムの共同開発をはじめ、星野リゾートでのインターンシップ、就職サポートなど多彩な取り組みを展開。観光業界に新風を吹き込み続ける星野リゾートのマインドやメソッドを取り入れ画期的な教育を提供している。

「観光マーケティングコース」では、星野リゾートのマーケティング術を授業に導入。授業の中で実際に観光プランを作り、実社会で活用する経験を通じて、観光業界を含む幅広い業界で活躍するために必要な知識とスキルを習得する。「ホテルスタッフコース」は、お客さまがホテルでより良い時間を過ごすためのサービスを、自分で発想して提供できるホテルスタッフ（ホテリエ）を育成するコース。ホテルスタッフにとって何より大切なホスピタリティ（深い思いやり・心からのおもてなし）の精神をコミュニケーションの一つととらえ、長年にわたりその向上に取り組んできた星野リゾートの接客ノウハウをベースに、お客さまの空港業界などの企業や地域とも連携。学生は、〝旅をつくる〟をキーワードに、地域活性や観光デザイン、ホスピタリティマネジメントなどの専門力を、企業連携課題などを通じた超体験型実習で実践的に身に付けていく。

2年間の集大成として取り組む卒業研究では、企業と連携した課題から取り組みたいものを学生が選択。「魅力的な旅をつくる」ことを念頭に、学んできたマーケティングを実践し、企画・制作力を磨きながら研究を進めていく。主な課題は、①新ホテルの企画②ホテルの課題解決（SDGs、食品ロス削減など）③観光客向けイベントの企画実施④カマレンジャーとして蒲田の魅力を発信⑤ツアーの企画実施―の五つ。これらを学生に経験

実習風景

リゾナーレ八ヶ岳でのフレッシャーズキャンプ

軽井沢でのツアー企画実施

遠藤教師

蒲田キャンパス
ホテル・観光科
Produced by 星野リゾート
観光マーケティングコース
ホテルスタッフコース
Hotel & Tourism わかたび NIHON KOGAKUIN
“旅を学び、旅をつくる”を観光産業で活躍する人材を育成！

超体験型実習で、
“旅を学び、旅をつくる”

ホテルの宿泊プランを企画
地元蒲田にあるホテルとのコラボで、学生が毎年宿泊プランを企画。実際に販売するプランの企画から準備、施工までを行っています。

ホテルの課題解決に挑戦
ホテル・不動産を運営する企業との連携で、「ホテルにおける食品ロス削減策の提案」をテーマとした卒業研究に取り組んでいます。

ツアー企画を学ぶ
旅行会社の現役スタッフを講師に招き、本物のツアー造成を学習。クラス旅行や留学生向けツアーなどを企画し、実践しています。

海外研修
生きた英語・異文化に触れ、立案した旅行プランを実践する海外研修を実施しています。（オーストラリア、シンガポール、香港などで実施）

日本工学院専門学校
〒144-8655　東京都大田区西蒲田5-23-22
0120-123-351　https://www.neec.ac.jp/
@nihonkougakuin　@neec_official　@nihonkogakuin　@nihonkogakuin_official
KATAYANAGI INSTITUTE 2027年、片柳学園は創立80周年を迎えます
ホテル・観光科　2年制
Produced by 星野リゾート

「楽しむ力」を育む大学
大阪観光大学
Osaka University of Tourism
〒590-0493 大阪府泉南郡熊取町大久保南 5-3-1
TEL 072-453-8222 URL https://www.tourism.ac.jp/

国連世界観光機関の観光教育国際認証「Ted Qual」の認証を更新！

宝塚医療大学
TAKARAZUKA UNIVERSITY of MEDICAL and HEALTH CARE
観光学部

尼崎キャンパス　〒660-0083　兵庫県尼崎市道意町 6-6-3
TEL：06-6420-4477　mail:kanko-ama@tumh.ac.jp　●観光学科（2年次以降）
宮古島キャンパス　〒906-0103　沖縄県宮古島市城辺字福里 619-1
TEL：0980-74-4040　mail:kankou@tumh.ac.jp　●観光学科（1年次）
加賀キャンパス　〒922-0057　石川県加賀市大聖寺　●（仮称・構想中）

宝塚医療大学
「ウェルネス」人材を育成

宝塚医療大学観光学部は新型コロナ禍を経て、世界の高付加価値層が注目する「ウェルネスツーリズム」分野で活躍できる人材を育成するために2024年に設立された。1年次は沖縄県宮古島、2年次以降は兵庫県尼崎で学ぶというダブルキャンパス制を採用している。

ウェルビーイングやリトリートが世界的に着目される中、宝塚医療大学だからこその医療の知識を生かした観光学を学ぶことができる。

1年次には沖縄県にある自然豊かな高級リゾート地としても有名な宮古島のキャンパスにてネイティブスピーカーの教員から集中的に英語を学ぶ。また、2年次以降はインバウンドが多数訪れ、2030年には日本初の統合型リゾート（IR）施設ができる大阪から至近にある兵庫県の尼崎キャンパスに移って、「ヘルスツーリズム」「地域経営」「ホテル・感性を持つ力が必要だ」と山田学長は指摘する。学校は「絶妙な距離感」です。①では、外国で国際協力に挑戦。環境や地域住民に配慮したサステナブルなツーリズムを体験する。長期インターンシップ、産学連携プロジェクトも充実。グローバルビジネスについても実践的に学んでいく。②では、4年間、外国語にどっぷりとつかりながら、多彩な価値観・文化を受け止め、世界中の人と分かり合える真の語学力を身につける。語学の授業は3年次まで必修。留学のプログラムも充実している。英語の教員免許取得のための授業でも、異文化理解を深める指導方法などを学んでいく。③では、学部必修科目「国際学入門」でディスカッションとグループワークによる学びを身につける。異なる意見を尊重し合い、世界の人々と共に生きるために対話を尊重する21世紀型の学びを提供。世界で起きている諸問題に向き合うための知識も深める。

「国際理解学科」では、ホスピタリティビジネス科目群」は、旅行、ホテル、航空、飲食など、観光業界に確実に人材を輩出している。

就職EXPOで真剣に聴き入る学生たち

大阪観光大学
国際的環境で観光と対峙

大阪観光大学（大阪府熊取町、山田良治学長）は、日本で唯一「観光」を大学名に冠する4年制大学だ。その観光学研究や教育プログラムの質は高く、国連世界観光機関（UNツーリズム）の観光教育国際認証も継続的に取得。近年では第一線の実務家によるDMO中核・実務人材のためのリカレント講座の主催でも知られる存在だ。

同校が憲章として掲げるのは「自由を共に楽しみ、社会を共に生き抜く力」。「観光を扱うわれわれこそ、多様な価値観に共感し、新たな視点や感性を生かして問題意識を持つ力が必要だ」と山田学長は指摘する。学校教育の中で自分に自信を持てずに育ってきた学生も多いが、同大学ならではの学びと環境により伸びやかに成長し、その多くが自らの望む進路をつかみ取っているという。

「共に楽しむ感覚や姿勢を持つ『良き観光者』になる素地として、楽しいと思えることを広げる体験、一緒に楽しむ経験を重視している」と話すのは観光学研究センター副センター長の小槻文洋教授。その実践の一つが「実践教育科目」の「文化鑑賞創造実践」だ。教員の「好き」であるダンスや城郭めぐりなどのテーマについて一緒に鑑賞、実践して「好きを楽しむ」経験を重ねる。同大学で野球部や鐵道研究会などの活動が盛んなのも、「好き」を突き詰め、共に楽しむことの大切さを学生が理解している証左だろう。

観光学部長のケイトリン・ストロネル教授

労働・余暇論の見地から「楽しむ力」の必要性を説く山田学長の新著

もう一点同大学の特長といえるのがその国際性だ。現在、在校生の3割が中国、2割がベトナムからの留学生。そのほか、ミャンマーやモンゴル、スリランカ等アジアを中心に多くの国からの留学生が学ぶ。日本人学生は2割弱で、日本にいながらにして多様な考え方に触れることができる。

2年生からの地域連携実践の授業では、地元自治体などと連携し、フィールドワークや地元の人々との意見交換等を通して課題解決などに取り組む。「グループワークで、留学生から『私の国では』などと違う視点からの意見が出ることはの留学生数は減少しなかった。教育の質、面倒見の良さなどが、留学希望者の中で認知されているのも、本学ならでは」と観光学研究センター社会連携室室長を務める細川比呂志教授は力を込める。

留学生教育の質の高さにも定評がある。日本語を学ぶ必修科目が多く、日本語能力試験のN2レベルに合格しなければ4年生の卒論ゼミに進めない。地域連携実践では連携先へのプレゼンテーション含め全て日本語で行っている。一部の留学生はアンバサダーとして大阪や和歌山の高校に赴き、国際交流・国際理解の担い手としても活躍。山本健慈理事長は「主要大学で留学生の受け入れ人数が増えた今年も、当初超